## ３　被爆体験講話から学んだこと

担当　　吉田

被爆体験講話では，実際に原爆によって被爆した羽田麗子さんから講話をいただきました。

講演をしてくださった羽田麗子さん

１９４５年８月９日。当時，羽田さんは９歳。いつものように，大学に向かう近所のお兄さんに「いってらっしゃい」と声をかけ見送りました。何気ない日常。しかし，そのほんの数時間後，突然，雷よりはるかに強い光が長崎を貫き，一瞬にして長崎は見るも無残な姿になったのです。お兄さんはなんとか帰ってきましたが，身体中にガラスの破片がつきささり，羽田さんはショックでいつもの「おかえりなさい」も声にならず，何も言うことができなかったそうです。私はそれを聞いて，原爆は人の身体だけでなく，人の心をも傷つけるものなのだと，とても悲しくなりました。

↑アメリカ軍によって撮影されたキノコ雲

おにぎりをもったまま呆然とする親子↑

←爆風によって折れた木々

←熱線によって変形したガラス瓶

講話の中で，最も印象に残ったのは，羽田さんの近所のおばさんのお話です。アメリカの戦闘機がまだ日本の上空を飛ぶ中，遠くから近づく真っ黒い人影。服はぼろぼろで，髪はきついパーマをかけたよう，身体は腫れ上がり，とても直視することはできませんでした。しかし，よく見るとその服はいつもおばさんが着ていたもの。羽田さんはその時，それが近所のおばさんだと気が付いたのです。放射線を大量に浴びたそのおばさんは，数日後に亡くなったそうです。

私は学校の授業や本などで，原爆についてある程度学んできたつもりでした。しかし，今回，青少年ピースフォーラムに参加して，改めて原爆について，平和について考えさせられました。平和とは，人と人とのつながり，相手のことを思いやることであり，また，人の命はとても尊いものだと改めて思いました。今，東日本大震災で私たちの暮らす宮城県のすぐ隣の福島県の原発が大きな問題となっています。とても苦しんでいる人たちがたくさんいます。私たちも目をそらさないで，その問題に真剣に取り組まなければならないと深く思いました。

長崎に落とされた「ファットマン」の原寸大の模型。
この大きさの爆弾で７万４千人の命が奪われました。

原爆が落とされてからの長崎の様子。

## ４　　フィールドワークを通して学んだこと

担当　　柏

８月８日。羽田麗子さんの講話の後，被爆建造物のフィールドワークに参加しました。最初の講話で羽田さんは，原子爆弾の恐ろしさは，爆風，熱線，放射線だということをお話していました。そのお話を頭の隅に入れておきながら，まず，浦上天主堂へ行きました。浦上天主堂は，爆心地から約５００m離れたところにあります。一つ一つ手作業でレンガを積み上げ，３０年をかけ作り上げた建物です。しかし，完成してたった２０年で原子爆弾によって崩壊してしまいました。一部の壁だけを残し，原爆による爆風で消え去りました。浦上天主堂に置かれていたヨハネ像とマリア像を見てみると，原爆によって黒くすすけている部分があり，石造の手や体の部分が爆風によりとれていました。遺壁の方は，爆風により重いレンガの柱や台がずれていました。

↑再建された浦上天主堂

↑爆風と熱線によって被爆した石像

これらを見ると，原爆の力がいかに大規模だったのかがよく分かります。また，浦上天主堂の近くに，天主堂の鐘楼が転げ落ちていました。やはり，この鐘楼も爆風により投げ飛ばされたそうです。５０トンもある鐘楼が軽々と飛ばされる光景を想像し，恐ろしく思いました。

爆風によって飛ばされた鐘楼

原爆落下中心地では，実際にその場へ原爆が投下され，市内で暮らしていた約２４万人中，約７万４千人が亡くなり，約７万５千人が負傷しました。その人たちも含め，原爆の被害で苦しめられた人々は１５万２２７６人と原爆落下中心地碑に刻まれていました。

原爆落下中心地碑。この場所に原爆が落とされました。

これらの原爆の実態を知ると，羽田さんの言っていた，「戦争は最低で最悪の暴力だ」という言葉が頭から離れませんでした。

爆心地から０．８㎞の山王神社の鳥居。現在もその姿が残っていました。

↑爆心地から約０．５㎞にあった当時の浦上天主堂。
爆風にとって無残にも建物が崩れ落ちた。

## ５　　交　流　会

担当　　柏

８月８日に行われた交流会には，全国から集まった各学校の代表，約２００人が参加しました。私達は，今回の大震災の被害を受けた宮城県気仙沼市の学校ということもあり，周りの方々にたくさん声をかけてもらいました。

私は，同じテーブルだった広島原爆資料館の方の話にとても励まされました。「広島は，原爆で被害にあい，大変な思いをしたけれど，全国からの支えと地元の協力で復興して，今はそんなことがなかったかのように綺麗な町になったのよ。少し先は長いかもしれないけど，必ず気仙沼も復興できるはずだからね。」と応援してくれました。私も町のために努力していきたいと，心から思いました。

各団体からの出し物では，小原木中学校伝統のソーラン節を披露しました。会場のみんなが，踊りに合わせかけ声をかけてくれて，とても盛り上がり，会場が１つになったという感じがして，嬉しかったです。気仙沼は被災し，大変なこともあるけれど，そんなことでは負けないという強い意志，元気を伝えることができたと思います。とても良い交流の場となりました。

小原木中学校伝統のソーラン節を踊りました。他の団体の方々も盛り上がってくれました。

## ６　平和祈念式典に参加して

担当　　伊藤

８月９日，被爆者の方々による合唱で平和祈念式典が始まりました。

原爆から６６年。今年も，新たに約３２００人もの方が原爆の影響で亡くなり，１５万５５４６人の方が原爆死没者名簿に登載されることとなりました。今もまだ爆弾で苦しめられている方がたくさんいることを思うと，とても辛い気持ちになります。

午前１１時２分，原爆で亡くなられた方々に黙とうをささげました。そして私は，「もう二度と同じことを繰り返さないでほしい」と強く願いました。

平和宣言で，長崎市長は「核兵器はいらない」「核兵器を人類が保有する理由はない」と強く訴えました。私もその通りだと思います。「日本に，世界に，核兵器はいらない。」そう思っていても，世界の中には，核兵器を保有している国があります。世界平和を実現させるために，世界中の人たちが互いに手を取り合う必要があるのだと思います。私も平和を求める一人として，今回学んだ原爆の恐ろしさを，たくさんの人たちに伝えていきたいです。

↑全国各地から平和式典の会場へ届いた千羽鶴。
平和へのメッセージが書かれていました。

↑平和式典の様子。全国各地から中学生・高校生が来ていました。

## ７　　参加型平和学習から学んだこと

担当　　伊藤

８月９日，平和祈念式典が終了し，その日の午後，原爆資料館で参加型平和学習が行われました。この平和学習には，全国から参加している生徒が集まり，「平和だと思うとき・そうではないとき」について話し合いました。「平和だと思うとき」については，「友達といるとき」「ご飯を食べているとき」と何気ない日常に平和を感じている人がほとんどでした。また，「平和でないと思うとき」には，「友達と喧嘩したとき」「自分の好きなことができないとき」などがあげられ，それらの意見について解決策も考えました。一人一人が真剣に平和な毎日を作るために考えることができたと思います。

初対面の人たちばかりで初めは緊張しましたが，とても親しみやすく，活発な意見交換ができました。進んで自分から話しかけたり，友達を増やそうと努力したり・・・たとえ小さな一歩でもそれが平和につながっていくことを知りました。私は学校生活の中で，友達と意見が衝突したり，物事が思うように進まなかったり，平和とは思えないときがあります。しかし，お互いに思いやりの心をもち，毎日が平和だと思える日常を作っていきたいです。

今回，平和学習で学んだことをこれからの生活に役立て，どんどん友達の輪を広げていきたいと思います。

↑グループの人たちとの話し合う様子。

↑同じグループで話し合った仲間。

## ８　終わりに　　～ピースフォーラムに参加して～

私はこの長崎青少年ピースフォーラムに参加して人と人とのつながりがいかに大切か学んできました。学んだこと，そして忘れてはいけないことを伝えていく上で，人がつながり，言葉がつながり，今の長崎を作ってきたのだと思います。

今回，他県から参加してきた同年代の人達と交流する機会がありました。その中で平和について色々な話をしました。長崎で私たちの学習会のお世話をしてくれたのが，長崎ピースボランティアという長崎市内の高校生から大学生の方々です。ピースボランティアの方々に様々な場面でサポートしていただき，当時の状況や平和，原爆に対する考えなどを説明していただきました。平和というのは，戦争がなく，穏やかで，私たちにとっては当たり前のようにあるもの。その当たり前の日常を一瞬にして変えてしまった原爆に怒りを感じました。実際に，六十六年前に起きたこの悲劇を，羽田麗子さんの講話や，長崎原爆記念館で原爆が投下された当時の現物や写真を見て，戦争と原爆の恐ろしさが伝わってきて，身の毛がよだつ思いがしました。そしてその当時のことを思うと，涙がこぼれ落ちそうになりました。

このピースフォーラムの４日間の学習を通して，長崎の復興に対する思い，平和に対する思いを実感しました。そして，その思いが今の長崎を作ったのだと感じました。これから長崎で学んだ「平和」について，たくさんの人たちに伝え，人と人とのつながりを大切にしていきたいと思います。

吉田

長崎ピースフォーラムに参加し，自分の決めたテーマのもと，とても実りある学習ができました。

フィールドワークでは，原子爆弾の威力，被害の大きさを建造物などを実際に見ることで肌で感じることができました。フィールドワーク中はピースボランティアの方々が，クイズ形式で原爆についての問題を出してくださり，とても楽しく学ぶことができました。私は，原爆落下中心地から近いところはもちろんですが，少し離れているところでも甚大な被害が出ていることがわかりました。

参加型平和学習会では，全国各地からの参加者たちと「平和」について話合いました。皆で話合いをすることで，普段の何気ない生活が平和そのものなのだなと改めて感じることができました。そして，その平和が崩れないよう，普段の生活を大切にし，小さいことでもいいので，自分にできることを少しずつ行っていきたいと思います。

伊藤

この４日間は私にとってとても内容の濃い，そして忘れることができない思い出になると思います。普段，「平和」についてこれだけ真っ正面から向き合えることなどほとんどありません。本当に貴重な体験をさせていただきました。

フィールドワークでは，長崎の町を歩きながら，当時の長崎，そして現在の長崎について学びました。現在は，にぎやかな長崎市内ですが，所々に原爆の傷跡や被爆建造物が残されているのを目にしました。未来へ向けた平和への思い，そして戦争の悲惨さ，平和の尊さを感じてほしいという願いを込め，長崎の人々はこれらを残しているのだと思います。私は実際に現場へいってそれを間近で感じてきました。自分の目で見て，心で感じてきました。だからこそ，私はこの思いを伝える義務があるのだと思います。

今回のピースフォーラムを通して，戦争，そして原爆の恐ろしさを知り，平和への関心がより一層高まりました。私はこの４日間で学んだことをより多くの人たちに伝えていきたいと思います。そして，東日本大震災の復興につながるよう私にできることを頑張っていきます。

柏

# 『平和って何ですか』

こう聞かれたとき，みなさんなら何と答えますか。

全国各地から集まった同年代の人達との平和学習の中では

こんな意見が出されていました。

平和とは　友達と話したり，遊んだりできること
平和とは　家族と団らんする時間があること
平和とは　おいしいご飯を食べているとき

私たちはピースフォーラムの中でいろいろな体験の中でたくさんのことを学び，『平和とは何なのか』を考えてきました。

『平和とは　友人と一緒にいる時間』

吉田

『平和とは　当たり前と思う毎日の生活』

伊藤

『平和とは　人とのつながり』

柏

毎日の生活に感謝をし，学んできたことを大切にしていきたいと思います。